

日 本 全 国

# 能楽キャラバン!

Noh Caravan!

福 | 井 | 公 | 演



令和5年12月24日(日)

13:00開演(12:00開場)

福井市にぎわい交流施設 3F ハピリンホール能舞台

福井県福井市中央1丁目2-1 TEL:0776-20-2901

料金

《前売》4,000円(税込) 《当日》4,500円(税込)

《若者割/当日のみ》30歳未満 2,000円(税込)

※中学生以下無料。※受付にて年齢を確認できるものをご提示ください。

チケット販売

ハピリン3F ハピリンホール受付(9時~19時)、  
ハピリン1F 総合案内(10時~19時)、金沢能楽会事務所

会場マップ



お問合せ

金沢能楽会事務所  
TEL:076-255-0075

主催/公益社団法人 能楽協会 後援/福井県、福井市、福井新聞社、FBC、福井テレビ、FM福井



文化庁文化芸術振興費補助金  
(統括団体による文化芸術振興費回廊・  
地域活性化事業(アートキャラバン2))  
独立行政法人日本芸術文化振興会

日本全国

# 能楽キヤラバン!

福井公演

〔解説〕 松田 若子

## 〔半能〕 高砂

シテ 広島 克栄

ワキ 北島 公之

ワキツレ 平木 豊男

ワキツレ 渡貫 多聞

大鼓 五十嵐浩之 太鼓 麦谷 暁夫  
小鼓 住駒 俊介 笛 室石 和夫

谷 清士 佐野 玄宜

鈴木 重寛 渡邊荀之助

芦田 嘉和 藪 俊彦

川島 英治 木谷 哲也

後見

島村 明宏

松田 若子

地謡

## 〔仕舞〕 実盛

キリ

大坪喜美雄

地謡

藪 俊彦

金森 良充

野月 聡

高野 秀幸

## 〔舞囃子〕 井筒

佐野 由於

大鼓 五十嵐浩之  
小鼓 多田 順子

江野 泉

地謡

渡邊 茂人

渡邊荀之助

金森 良充

## 〔一調〕 六浦

佐野 玄宜

太鼓 前田 孝雄

あらすじ

### 〔半能〕 高砂 たかさこ

阿蘇神社の神主・友成が高砂神社に参詣すると、高砂神社と住吉神社の松の精が現れ、両社の松は相生の松、つまり一心同体であると語ります。友成が、松の精の告げに従い住吉神社へ船で渡ると、住吉明神が現れ、平和な御代を祝う舞を舞います。

相生の松の精が老夫婦の姿で現れるので、新郎新婦が相生の松のようにいつまでも仲睦まじくあるようにと、昔から結婚式で語られてきました。半能では、後半部分をご覧いただきます。

### 〔仕舞〕 実盛 さねもり

キリ

遊行上人が加賀国(今の石川県)篠原で説法をしていると、一人の老人が現れます。老人は、この地で討たれた平家方の武将・齋藤別当実盛について物語ると、実盛の霊であると明かして姿を消します。上人が供養していると、実盛の霊がありし日の姿で現れます。

仕舞は、能の一部分を紋付袴姿で、謡と舞で見せる形式。「キリ」は終曲部の意味で、実盛の亡霊が、手塚太郎光盛に討たれたときの様子を再現して見せる場面をご覧いただけます。

### 〔舞囃子〕 井筒 いづつ

旅の僧が荒廃した大和国(今の奈良県)在原寺を訪れると、一人の女性に声をかけられます。女性は、在原業平と紀有常の娘の恋について語ると、有常の娘の霊であると告げて、二人が幼い頃に昔丈を比べた井筒の陰に姿を消します。僧が吊っていると、紀有常の娘の亡霊が業平の形見をまもって現れ、懐旧の舞を舞います。

舞囃子は能の一部分を紋付袴姿で、囃子も入った形で見せる形式。紀有常の娘の亡霊が業平を思っ舞う場面をご覧いただけます。

### 〔一調〕 六浦 むつら

旅の僧が相模国(今の神奈川県)称名寺を訪れると、風の精が現れます。一調は、謡手と囃子方一人ずつで聞かせる形式。囃子方は、一調の時だけの特別な手組を打ちます。今回は謡と太鼓で、六浦の終曲部をお聴きいただけます。

休憩二十分

【能】 葵上

梓之出

ツレ 葛野 りさ  
シテ 戴 克徳

間 炭 光太郎

ワキ 平木 豊男  
ワキツレ 渡貫 多聞

大鼓 飯嶋六之佐 太鼓 麦谷 曉夫  
小鼓 住駒 幸英 笛 江野 泉

後見 渡邊荀之助

松田 若子

木谷 哲也

地謡

谷 清士

野月 聡

酒井 章

佐野 由於

鈴木 重寛

島村 明宏

松本 博

渡邊 茂人

休憩二十分

【狂言】 千鳥

シテ 能村 晶人

アド 能村 祐丞  
小アド 炭 哲男

後見 中尾 史生

【能】 石橋

ツレ 福岡 聡子  
シテ 佐野 弘宣

ワキ 北島 公之

大鼓 飯嶋六之佐 太鼓 大橋 紀美  
小鼓 住駒 俊介 笛 室石 和夫

後見 野月 聡

佐野 玄宜

木谷 哲也

高野 秀幸

地謡

岩井 嘉樹

渡邊 茂人

芦田 嘉和

大坪喜美雄

中村 清

島村 明宏

田屋 邦夫

金森 良充

【能】 葵上

梓之出

あおいのうえ あすきので

光源氏の正妻・葵上は、物の怪のせいで病床に伏せていました。物の怪の正体を明らかにしようと、照日の巫女が梓の弓を弾いて口寄せを行うと、六条御息所の生霊が姿を現し、葵上に恨みを述べて打ちつけます。葵上の病状がますます悪化したので、横川の聖を呼んで祈禱させると、生霊が鬼女の姿で現れ、法力に屈すまいと抵抗しますが、最後は折り返せられ、成仏して帰っていきます。

六条御息所は身分が高く、やがて源氏の心が離れる中、葵祭で葵上の下人に散々仕打ちを受けて恨みを募らせ、ついに生霊となったのでした。鬼女となった六条御息所の怨霊は、有名な「般若」の面をつけて現れます。嫉妬の恨みと、捨てられた悲しさを表す面です。

「梓之出」は特殊演出で、六条御息所の生霊の登場場面が、より恨みと悲しみを強調したものになります。舞台前方に出された小袖が、病床の葵上を表します。

【狂言】 千鳥

ちどり

明日に差し迫った神事の用意に、いつもの酒屋へ酒を買いに行くよう主人から命を受けた太郎冠者。その酒屋にはツケが貯まっているので、なかなか酒を受け取ることはできないと言いますが、主人に言いくるめられて結局酒屋へ行くことになりました。酒屋の亭主もよくわかつていたので、なかなか樽に酒を詰めてくれませんが、今年には米持ちになったので、米と引き替えにようやく酒を詰めてもらいます。酒屋から米を見ないうちは酒を渡すことはできないと言われてしまった太郎冠者は、米が届くまでの間に尾張の津島祭を見物した様子を見て聞かれます。祭の前に浜辺で千鳥を伏せる様子や流鏑馬の様子を見て、なんとか酒を持って帰ろうとしますが…

代金も無しに酒屋へ使に行かされた太郎冠者が、なんとかして酒を手に入れようとする苦心が、そのままおかしさになっていて、酒屋を相手に、千鳥を伏せる様子や流鏑馬の様子が見どころとなっています。

【能】 石橋

しゃつきょう

寂照法師は中国に渡り、文殊菩薩の浄土と言われる清涼山へかかる石橋を訪れます。さっそく渡ろうとすると、一人の少年が現れ、谷底は非常に深く、石橋の幅は狭い上に苔が生えて滑りやすい。人間が容易に渡れる橋ではないと戒めます。ここでしばらく待っているように告げて少年が姿を消すと、文殊菩薩に仕える百獸の王・獅子が現れ、百花の王・牡丹が咲く石橋の上を勇壮に舞います。

いわゆる獅子舞が見どころのおめでたい演目。家元からお許しを得て初めて舞うことが出来る披露物の一つでもあり、高いレベルの修練を必要とします。舞台上に出される台が石橋を表します。